

編集・発行/いたみ雅治事務所  
〒411-0035 三島市大宮町3-14-15  
Tel & Fax: 055-975-7896  
https://m-itami.com/

ふるさと三島市を  
もっと元気にするために  
活動しています!



### 危機管理くらし環境委員会 委員長として

本委員会は、地震・津波・風水害などの災害対策、くらしの安全、環境保全など、県民の皆さんの生活に直結する大切な分野を担当しています。

地震等の災害リスクを抱えつつ、豊かな自然に恵まれ、多様な県民が暮らす静岡県において、**「もしもの時に命を守る仕組みづくり」「普段の暮らしをより良くする取り組み」**を進めることが、委員会の使命です。委員長として、現場の声を県政に正確に届け、改善へつなげる役割を強く意識して取り組んでいます。

#### 台風15号対応をめぐる問題を受け、知事へ申し入れ

令和7年9月5日に牧之原市で発生した台風15号突風災害への対応において、自衛隊とのやり取りが県庁内で適切に共有されず、委員会において不正確な答弁が行われたことが明らかになりました。災害時の情報の遅れや誤りは、被害の拡大につながりかねません。この問題を重く受け止め、委員会として鈴木康友知事へ**「危機管理体制の見直し」「情報共有の徹底」**を求める申し入れを行いました。



申し入れを受け、  
県が具体的な改善へ動き出しました

委員会の申し入れを踏まえ、県は危機管理に精通した外部有識者による検討会を設置し、次の取組に着手しました。

- 台風15号による竜巻被害への県の対応を、第三者の視点で検証し、課題を抽出
- 課題解決のため、初期対応時の危機管理体制(情報把握、情報共有・発信)の改善策を検討



竜巻災害の被害(牧之原市)

委員会の働きかけが、県の危機管理体制の改善に向けた具体的なアクションとして結実した重要な成果です。引き続き、こうした改善が確実に実行されるよう、厳しくも建設的な視点で取組を確認してまいります。



発生した突風は国内最大級の「竜巻」と判明。牧之原市内のけが人は75人、住宅の被害は1340棟。



### 東日本大震災の教訓を、静岡県の防災へ

危機管理くらし環境委員会として、岩手県山田町を視察しました。震災で甚大な被害を受けた地域ですが、復興の取り組みから多くの学びがあります。今回は**初動対応・避難所運営・住民支援・生活再建**を中心に、現地の方々から貴重なお話を伺いました。

#### 視察の目的

静岡県の**危機管理能力を高めるため、**

- 災害直後の行政の動き
- 避難所の課題と改善
- 高齢者・障害のある方への支援
- 住民参加による復興計画づくりを学ぶことが目的でした。



東日本大震災津波伝承館



山田町の町議・職員の皆さんと

災害後の対応や避難支援、生活再建は、本県や三島市にとっても大きな課題です。県民の命を守るため、災害直後の県と市町の連携による初動体制を強化し、避難所運営の改善により被災者の生活の質を確保するとともに、共助や復興の推進のため、地域コミュニティの力を高める取り組みを充実させることが重要です。どの災害にも共通する教訓が多くあり、これらの学びを今後の危機管理施策にしっかり反映してまいります。

### 住宅の『耐震化』は“命を守る基本”

県内住宅の耐震化率は92.8%(R5)に達し、県目標「95%」も今年度中に達成見込みです。木造住宅の耐震補強も4,100件(R3~R7.10)を超え、着実に進んでいます。

#### それでも残る課題

古い住宅や、店舗・ホテルなど不特定多数が利用する建物の耐震化は遅れています。高齢者世帯においては、費用負担や工事への不安が大きく取り組みづらい現状があります。このため県は、

- 耐震シェルターや防災ベッドなどの減災化への支援
- 高齢者向けの融資制度(リバースモーゲージ型住宅ローン)の普及など、踏み出しやすい支援を強化しています。



防災ベッド

#### 次期計画「TOUKAI-0+」

**TOUKAI-0は、令和7年度で終了予定でしたが、まだ残る課題解決のため、名称を「TOUKAI-0+(プラス)」に改め、令和12年度末までに耐震性が不十分な建物をおおむね解消することを目標に、継続することとしました。**

継続に当たっては、高齢者世帯が取り組みやすいよう、従来の耐震補強に加えて、減災化支援や寄り添ったサポートを拡充します。



耐震補強工事(筋かい設置)の例